

里山自然観察隊の観察日誌（平成18年度）  
「宇部市地球温暖化対策ネットワークの環境教育支援事業」  
「環境省こどもエコクラブ登録事業」

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

1. 食べられる野草（4月15日、隊員29名、保護者18名、会員18名）

探した食べられる野草・木の芽 20種

1. タンポポ
2. ノアザミ
3. ハハコグサ
4. フキ
5. ヨメナ
6. ヨモギ
7. カラスノエンドウ
8. ゲンゲ(レンゲ)
9. クズ
10. セリ
11. オランダガラシ(クレソン)
12. タネツケバナ
13. ナズナ
14. スイバ
15. ノビル
16. ツクシ
17. ワラビ
18. タラノメ
19. コシアブラ
20. タケノコ

子ども達が見つけた種類

- 1~18までの18種（雨天のため林内には入らず、19、20は未発見）

天ぷらにして食べた種類

9. クズ、19. コシアブラを除く18種+サツマイモ、ゼンマイ

まず驚かされたのは、この雨天の中、一生懸命野草を探して走りまわる子ども達の姿です。たくさん探せば俣瀬券というご褒美があるんだよ、と事前のアナウンスはしていましたが、子ども達の真摯なまなざしを見る限り、ご褒美なんかニの次ではなかったでしょうか。取って食べる、という生き物にそもそも備わっている本能みたいなものが、きょうの子ども達には十二分に発揮されていました。これがある限り、これから先も人類は大丈夫！という感じさえしました。きょう一番たくさん種類を探した子どもは、17種です。12種以上探した子どもが約3/4もいました。私は午前中、見本のサンプルを探すために、スタッフ6人の協力を得て、2時間近く掛けてやっと20種を探し当てました。ところが子ども達は、40分足らずの間に易々とその大半を見つけてしまったのです。恐るべき能力です。今年は、子ども達に種類を再認識させるためと、誤食を避けるために、食べる前に種類ごとに集めて私が再チェックを行ないました。ところがほとんど100%近い確率で、子ども達は正しい野草を集めていました。これはたいへんすばらしい認識能力ではないでしょうか。葉っぱのかたちがどうか、おしべが何本かということより、ぱっと見た目の直感でわかることがたいせつなのです。親しい人の顔がすぐわかるのと同じように、生き物も一目でわかるようになって欲しい、というのが私の願いです。それが自分に関係する（例えば食べる対象として）となれば、生き物も自分と親しいものになると思うし、自然をたいせつにしようという心も湧いてくると思うのです。身近なところにある野草が、本当はほとんど食べることができるんだ、ということを知ってもらっただけでも、好奇心がきらきらと前面に出ている子ども達にとっては効果抜群です。子ども達の自然に対する好奇心、それをいかにうまく引き出していくか、というのが我々おとなの役割でもあると思います。

二俣瀬ビオトープの里山自然観察隊は、すばらしい自然の学びの場です。きょうもたくさんのスタッフの皆さんの協力があったからこそこの観察会ができました。これからも、次世代を担う子ども達のために、多くの人達がこの里山自然観察隊を支えていってほしいと願っています。

（美濃和 信孝 記）

## 2. 野鳥観察（5月20日、隊員34名、保護者18名、会員11名）

観察した野鳥（20種）

ウグイス	ツバメ	ヒバリ	ホトトギス	ヒヨドリ
セグロセキレイ	ホオジロ	スズメ	ダイサギ	カワセミ
カワラヒワ	カルガモ	トビ	ハシボソカラス	メジロ
モズ	ドバト	ハチクマ	コゲラ	チドリ sp

※ チドリ sp（チドリの仲間）チドリではあるがコチドリかシロチドリか不明

野鳥（カラス スズメ）の名がついた植物の観察

スズメノヤリ	スズメノエンドウ	スズメノテッポウ	カラスノエンドウ
--------	----------	----------	----------

前日からの雨もあがり、観察時間（14:10～15:50）には、太陽が顔をだす好天となった。野鳥や植物名はカタカナ表示することを教え、野鳥の絵をみせて野鳥ビンゴゲーム紙の空欄に記入させたが、一年生ジュニア会員はできたかな？

総勢60名が神社・畑・厚東川・田・ビオトープと移動するので長い列となり、ペース配分がかなり難しい。対象の野鳥は常に移動（飛ぶ）するので、先頭部は観察できて後ろはできなかつたとか、又その逆と、幸・不幸があつたがどうにか楽しめたようだ。隊員に比べリーダーが少なく、子供への説明があまりできなかったのが課題と感じた。会員諸氏の更なる生物への関心・知識の向上を促したい。

ビンゴゲームをより多く完成させたい子も多く、自分で見つけてすぐ「あれは何？」と問いかける子が多く、見つけた鳥の名を告げると、ちょっと姿を見るやいなや、紙をチェックする子も多かった。観察よりビンゴか！ 俣瀬券か！（笑い）

厚東川は増水により、川岸で餌を獲るサギ類が見られなかったのは納得できるが、一昨年まで昭和山で営巣していたミサゴ（準絶滅危惧種）は最近姿を見ないし鳴き声も聞かないがどうしたのだろう。私が確認したビオトープ周辺に生息する貴重種は、県指定の絶滅危惧IB類のヤマドリ、準絶滅危惧種のフクロウ・オオタカ・ハイタカ・ヤマセミ・ヒバリであるが、周辺は特に野鳥が多くもなく少なくもない普通の環境であると認識している。

しかし参考までに述べると、近くの厚東川水系にはある種の素晴らしい環境の場所がある。本邦初披露するがアオシギの越冬・コウライアイサの中継地となる場所である。野鳥を観察する専門家である、日本野鳥の会山口支部（会員500名）のバーダー（野鳥観察者）でも、県内で両種の観察経験者は片手で余る筈である。いつまでもその環境が脅かされないことを願っている。

子供たちは自然の中で伸び伸びと振る舞い、好奇心が旺盛で、かつ賑やかな（やかましい！）観察会であった。観察はともかく、いろいろな自然環境に触れて、少しでも自然や生物に興味を持って楽しめれば、子供達にとっても保護者にも喜ばしいことだろう。企画・担当する我々会員も然りである。

ビオトープで20分ぐらい自由時間をとったが、子供たちは野鳥観察をさておき、水辺の昆虫や草花に夢中であつた。やはりビオトープには多種多様な生物が存在してこそ、その価値があると再認識した観察会であつた。

（寺森 正行 記）

### 3. 昆虫観察（6月17日、隊員25名、保護者11名、会員13名）

今回は、昆虫の観察ということで、天気が心配でしたが、雨も降らず予定どおり行うことが出来ました。午前中かなり冷えたせいもあり、また、曇り空ということもあり、観察できた虫の種類が少なかったのが残念でしたが、クワガタを見つけた子供もいたりして、皆結構楽しかったのではないかと思います。観察結果は次のとおりで、ベニイトトンボ、グンバイトンボを捕まえ、見事二俣瀬券をゲットし喜んでいて子供もいました。

ところで、昆虫の成虫は、その発生時期が決まっていますが、1年中（冬も）いつでも見られるものから、春だけ、夏だけしか発生しないものも多くいます。蝶なんかは、真冬でも暖かい日には見ることが出来るものがたくさんいます。ほたるは5月の終わりから6月の中頃までのわずかの間しか見ることができませんね。

私のもっぱら蝶を追いかけているのですが、ビオトープ周辺で約50種類を見かけています。名前の確定が出来なかったものもいますし、まだ見ていないものもたくさんいると思います。出来る限り撮りたいと思っていますので、これからも、ぶらぶら歩きを続ける予定です。

#### 【観察結果】

##### トンボ（6科13種）

イトトンボ科 : クロイトトンボ、ベニイトトンボ、アオモンイトトンボ、キイトトンボ（透明型）

モノサシトンボ科 : モノサシトンボ、グンバイトンボ

カワトンボ科 : ニシカワトンボ（橙色型）

サナエトンボ科 : ヤマサナエ

トンボ科 : ハラビロトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ

ヤンマ科 : スジグロギンヤンマ

##### 蝶（5科14種）

アゲハチョウ科 : アゲハチョウ、モンキアゲハ

シジミチョウ科 : ルリシジミ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ

ジャノメチョウ科 : ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ

シロチョウ科 : モンシロチョウ、キチョウ

タテハ科 : アカタテハ、ルリタテハ、ツマグロヒョウモン

##### バッタ

ツチイナゴ、クビキリギス、ヒシバッタ、マダラバッタ？ キリギリス？ カマキリの仲間

##### その他

マメコガネ、コメツキムシの仲間、ゴミムシの仲間、ベニカミキリ、ヒラタクワガタ、コガネムシ、コガネムシの仲間、コアオハナムグリ、ウスバカゲロウ

（藤井 義晴 記）

### 4. 川の探検（7月15日、隊員23名、保護者16名、会員14名）

#### A 班（ビオトープの観察）

今年の水棲生物の観察は、4つのグループ分けをして、それぞれのメンバーが協力して魚などを取るようにしました。それは、最近の子ども達は魚取りをした子も少なく、まったく網の使い方すらできない子どももいるので、魚を取る技術の伝承も自然観察隊の重要なテーマの一つと思われるからです。今年の須賀河内川は、例年になく水量が多く、胸近くまで水に

浸かっての魚取りとなりましたが、たいへん暑い日だったので、みんな抵抗なく川の中での魚取りに興じていました。水量が多かったため、魚の数はそれほどではありませんでしたが、種類はほぼ例年通りのものを取りことができました。魚では、何人かの子どもがビオトープ脇の流れの緩やかなところでオヤニラミの稚魚を取りました。オヤニラミの成魚はビオトープの堰堤の下で昨年、一昨年と取りましたが、堰堤の上では今年が初めての記録となりました。また、婚姻色と追星の出たカワムツのオスの成魚（15cm）をビオトープ上流の堰堤の下で捕まえることができましたが、こんなに大きなカワムツがいるということがわかったことも収穫でした。水棲昆虫では、平べったいくモのような形をしたコヤマトンボのヤゴをたくさんの子どもが取っていました。これも須賀河内川の豊かさの証しであろうと思います。

- ・水流が早いところ カワムツ、カマツカ、オヤニラミ
- ・遅いところ メダカ、フナ、ドジョウ、ミナミヌマエビ、タイコウチ、ミズカマキリ、アメンボ
- ・川の底 ドンコ、モクズガニ、ヤゴ(コヤマトンボ、ハグロトンボ、その他)

(美濃和 信孝 記)

#### B 班 (清瀬峡登り)

清瀬峡登りは今回が初めての企画です。観察隊員5名に大人が6名で挑戦しました。草原ゾーンの堰堤から川に入るといきなり泳ぐような深さで、冷水の洗礼に喚声が上がります。ため池ゾーン横のヨシが刈り取られたばかりの区間は足のもぐるような砂底で、堆砂しやすい場所にヨシが茂るのがよくわかります。隊員は元気いっぱい、大声で叫び、手網をふるいながらどんどん進みます。ビオトープを過ぎるといよいよ滑りやすい岩床が出現。声をからしてスリップの注意を促すそばから見事に転倒！隊員に支給したヘルメットがさっそく役立ちました。痛い目をみて学んでいくのですが、こっちは気が気ではありません。あらためて、大人と子供がマンツーマンで組むことにします。2つほど簡単な落差を越えるとだんだん林の中へと入っていきます。このころには隊員それぞれの特徴が行動に現れてきます。ひたすら魚の数を追求するもの、どんどん先に進むもの、ゴーグルをつけ顔を伏せたまま泳ぎ続けるもの・・・隊列も広がり気味。張り出す枝をくぐり抜けると父滝に到着。父滝の滝つぼは大人でも油断すると背がたたないほど。投網を打つと15cmオーバーのカワムツがとれました。いよいよ滝登りです。まず大人1人が登り、ロープを垂らします。取り付き部の足がかりがなく、子供だけでなく大人にもなかなか歯ごたえがある滝でしたが、飛沫を浴び、歓声を上げながらなんとか突破。続く母滝もしっかりした滝つぼがありますが、もうどんどん登っていきます。田んぼ横のトロを過ぎると林の中の岩床帯となり、清瀬峡の名に相応しい景観が出現。童滝、寄合滝、二俣の滝と次々に制覇して終点に到着。途中、童滝の滝つぼではしゃぎすぎた一隊員が岩角で指先を切ってリタイアしたのが残念ですが、4人が元気に登り切りました。最終的に採取できたのは、カワムツ小102、カワムツ中10、カワムツ大2、ヌマエビ9、モクズガニ1、イトトンボのヤゴ3、カワニナ3。カワムツは岩床部ではやや少ない印象でしたが全区間にわたって採取できました。魚とりに専念した隊員は1人でカワムツ60尾をとりあげトップ賞獲得。大人も子供も結構な達成感が味わえる企画で、今後も改善しつつ継続できたらよいと思いました。元気すぎる隊員が相手では大勢は無理ですがね！

(関根 雅彦 記)

5. 川の探検 (キャンプでしたが、8月19日は台風のため中止しました)

6. 昆虫観察 (秋の鳴く虫、9月16日、隊員5名、保護者2名、会員9名)

(1) チョウ

(シロチョウ科) キチョウ、モンシロチョウ

(タテハチョウ科) ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、キタテハ、コムスジ、ヒメウラ  
ナミジャノメ

(セセリチョウ科) イチモンジセセリ、キマダラセセリ、チャバネセセリ

(アゲハチョウ科) モンキアゲハ、アゲハチョウ、カラスアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、  
ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ

(シジミチョウ科) ヤマトシジミ、ベニシジミ、ルリシジミ、ウラギンシジミ

(2) バッタ・コオロギ

(バッタ科) ショウリョウバッタ、ハネナガイナゴ、ツチイナゴ、ナキイナゴ、オンブバッ  
タ、クルマバッタ

(キリギリス科) キリギリス、クビキリギリス、ウスイロササキリ

(コオロギ科) エンマコオロギ、ツヅレサセコオロギ、マダラスズ

(3) トンボ

(オニヤンマ科) オニヤンマ

(トンボ科) シオカラトンボ、ウスバキトンボ、マユタテアカネ、マイコアカネ、コフキト  
ンボ

(イトトンボ科) クロイトトンボ、ベニイトトンボ、オオイトトンボ

(カワトンボ科) ハグロトンボ

(4) カマキリ

(カマキリ科) オオカマキリ、コカマキリ

(西原 一誠 記)

7. 森の探検 (木の実、キノコ、ロープワーク)

(10月21日、隊員23名、保護者11名、会員8名)

○ キノコ

・ カワラタケ (色から見るとカイガラタケ?)、ホコリタケ (木に生えていたのでタヌキ  
ノチャブクロ?)、後2種見たが種名は不明 (木に白い色のものと白+黒の皿状のもの)

○ 木の実

・ アラカシ、コナラ、スダジイ、クリオオバヤシャブシ、ヒメヤシャブシ、ガマズミ、ア  
ケビ、イヌザンショウ、ソヨゴ、コマユミ、シイモチ、チャノキ、カキ、クチナシ、ゴン  
ズイ、ツバキ、サルトリイバラ、ノイバラ、アカマツ、クスノキ、フユイチゴ、ハゼ、シ  
ヤシャンボ、ヒサカキ

(西原 一誠 記)